

国際的な視点に立った教育の推進

1. 国の動向と目指す学校教育の姿

○第4期教育振興基本計画（令和5年度～9年度） ＜2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成＞

- ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や、一人ひとりの生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要
- ・Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

2. 本市の環境・方向性

○大学や研究機関、企業などの多様な人材の集積

- ・ナノテラス稼働（令和6年4月）
- ・東北大学「国際卓越研究大学」認定（令和6年11月）
- ・東北の中核としてとしての都市機能や企業の集積

○仙台市総合計画（令和3年度～）

Green⇒成長 (Growth) 学びと 実践の機会が あふれるまちへ	・子どもたちが個性を尊重されて健やかに育つことができ、地域に対する親しみと学ぶ喜びを実感できるまち ・次の仙台をつくる担い手が育ち、東北や世界の未来にも貢献できる人材を輩出する学びとチャレンジのまち	Green⇒心地よさ (Comfort) 多様性が 社会を動かす 共生のまちへ	・多様性が尊重され、包摂される、誰もが安心して暮らすことができるまち ・一人ひとりが持つ多様な価値観・経験を、社会全体がより良い方向に進むための力に変えるまち
--	--	---	--

○「仙台市ダイバーシティ推進指針」（令和7年3月策定）

- ・歴史・文化・都市個性を踏まえ、世界を視野に調和のとれた「仙台らしいダイバーシティまちづくり」を推進

「たくましく、しなやかに自立する人」を育てるために、これまで以上に、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化する必要がある。

3. 国際的な視点に立った教育

ねらい どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかを考え、その実現を目指して学び続ける子どもたちの育成

○小・中学校で一貫して学ぶ英語を核とした新教科【（仮称）国際探究科】の方向性 ※国の教育課程特例校制度の活用を想定

【当事者意識を持って他者と積極的にコミュニケーションを図り、問題を発見・解決できる資質・能力を育成する】

- ・指導時数：【新教科の年間授業時間数】＝【外国語活動・外国語科標準時数】＋【15時間程度（総合的な学習の時間から移行）】
- ・対象学年：小学校3年生～中学校3年生を想定。小学校1・2年生では生活科の中での体験的な学びの充実

R7：検討着手
段階的に進め、
R11：全校展開へ

何ができるようになるか	・ダイバーシティの意識・態度の醸成 ・国内外の課題を解決しようとする創造的・論理的思考力 ・主体的に学び続ける態度と英語を活用した表現力 ・世界の一員としての自覚と自己の確立
何を学ぶか	・新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた英語の授業内容を核とした学習 ・地域や日本の文化、歴史、科学や世界とのつながり、自分づくり教育や防災教育と関連させた、生きて働く知識・技能
どのように学ぶか	・教科書題材や独自教材を使用して、国際的な視点の題材や体験を通じた活動、地域の歴史・文化や、科学技術、職業観、防災等をテーマに英語を活用した教科等横断的で体験的な学びの実践。学んだことを積極的に活用した探究的で深い学びの実践。

○全市立学校へのALT配置

- ・令和7年度より段階的に外国語指導助手（ALT）を増員し、小学校への配置を拡大。令和9年度までに全ての市立学校へALTを配置します。
- ・日常から学校にALTがいることで、授業のみならず、学校生活全般でALTとの交流により、異文化に触れる機会を積極的に構築します。